



【 打ち勝って行くためまずすべき原則 】

本日聖書箇所: 歴代誌第二20章1-4・14-21節 / 暗唱聖句: ピリピ人への手紙4:6-7節 説教者: 鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチ、信仰の家族のみなさん！特別な日、主日の朝、主の教会に礼拝を捧げるために来られたみなさんを救い主イエスキリストの御名によって祝福しつつ、歓迎致します。先週一週間も皆さん、お元気でしたか。初雪が降り、気温も大分下がっていますが、今夜かけてさらに大雪が降る恐れがあるようなので、是非体調崩さないように、お体も、運転される方もお気をつけて下さい。今週もみなさんの霊肉とともに心体、考えすべてが守られますよう切にお祈り申し上げます。

またあさってから韓国から大学生宣教チームが一週間来る予定なので、覚えてお祈り下されば幸いです。

2016年も年明けてから、もう1月4週目を向かえています。すでに日々みなさん各自職場で、家庭で、学校で忙しく過ごしていると思います。もうある方は時間や仕事、人の中でいろんな戦いを経験されている方もいるでしょう。先週の御言葉のように、荒野のような我らの人生の道のりなので、これからの先が道がよく見えないため恐れたり、不安に思われる時もあるでしょう。危険や病の恐れ、考えた事もない問題、周りの人たちとの葛藤や見えない戦い、そして、絶えず自分の中でも戦いが常にあります。

間違いなく、昨年経験されたように、2016年にも人生の中で様々な戦いが待っているでしょう。我々が生きている限り人生の中のいろんな戦いが続くかも知れません。先週私たちはイスラエルの民たちが荒野でのそんな恐れや戦いの中にあって先立って行かれ、進まれ、導いて下さる神、いろんな戦いの中、神主ご自身が我々のために戦って下さる神、父が子を抱きしめているように、父なる神はわれらを孤児のように見離さず、見捨てないでいつも共におられ、哀れみ深く、慈愛深く守り、支えて下さるお方である事を教えて頂きました。

今日は聖書の中、出ているイスラエルの南ユダ王国4代目王であったヨシャパテ王(B.C.853)を通して人生の危機やなかなか自分では勝てなさそうな大きな戦いや問題に直面した時どうすれば、そこから打ち勝って勝利して行く事が出来るか勝利への原則を共に学んで生きたいと願います。今日の御言葉の本文のイスラエルのヨシャパテ王は、イスラエルの歴史上最大規模の戦争に逆転し、ついに大勝利をおさめたことで有名な信仰の人物です。ある日、ヨシャパテ王は、イスラエルの周囲のモアブ人、アモン人、メウニム人たちが連合して、おびただしい大軍で恐ろしいほど、猛攻撃をイスラエルのユダ王国に攻めて来ているので、もう半日が経つと首都エルサレムまで陥落されそうだという情報を、入手(にゆうしゆ)しました(歴代誌二20:1)。敵国はいずれも、ヨルダン川や死海の対岸(たいがん)に位置する隣国でした。ヨシャパテに勝算はまったくありませんでした。

この御言葉の話は、私たちの人生にも深い関わりがあると思います。今日私たちも経済的な戦い、霊的な戦い、結婚生活における戦い、職業上の戦い、人間関係の戦いなど、日々の生活の中でさまざまな戦いに直面しているのではないですか。今日生かされている私たちの人生中でもさまざまな戦いに勝利して行くための信仰の原則を明らかにするために、神はヨシャパテ王に起こった実際の出来事を聖書に残されたと信じます。

<勝利して行くため、我らがまずすべき事>

<①打ち勝って行くための第一の原則はまず、敵を正しく見極める事です。>

歴代誌第二20章1節には、人生のさまざまな戦いに勝利するためにまずすべき必要な第一の原則を教えてください。それは、**まず敵を見極める**ことです。敵がだれなのかを正確に、そして正直に把握しない限り、私たちが自分自身の戦いに勝利することはできないと思います。これはある意味で当たり前で、とても簡単なようですが、実はとても混乱しやすい難しい原則だと思えます。多くの人は、自分の敵がだれなのかを知らずにいます。しばしば私たちは、ある出来事やきっかけにより愛すべき家族や、隣人、職場の人とか、自分さえも敵とみなしてしまう時があり、彼らを責めたり、苦しませる時があります。あるいは、逆に自分や自分の家族以外は誰でもみんな自分たちに害を与えようと戦うべき敵みにみにみなし、自分の家を城見たいに作ろうとし、外部との交流(こうりゆう)を遮断し、閉鎖(へいさ)的な方々もいます。

しかし、みなさん！普通本当の敵というのは、意外にも自分自身の態度によるものが非常に多いのではないのでしょうか。わたしたちを落ち込ませる原因は、「人や状況そのもの」よりもむしろ、「その人や状況にどう反応するのか」という自分自身の態度にかかっている場合が多くあります。

今日の聖書の本文によりますと、今イスラエルの周辺の3国から総攻撃を仕掛けられたことを知ったヨシャパテ王は「恐れた」(3節)と書かれていることに注目して下さい。恐れは、このように危機に巻き込まれて、どうしようもできない状況におかれた時の人の反応でしょう。大きな問題に直面すると、私たちはパニックを起こし、何が起きているのかを何が起きているのかさえ把握できなくなる時もあります。

‘よく分からないし、どうすればいいんだろう’というのが、大きな問題が起こった時の人の自然な反応だと思います。

もちろん、恐れや不安の感情を、問題を乗り越えるための動機にすることもできるでしょう。しかし、恐れや不安のため失望したり、あきらめなくなったり、あるいは「なぜ私が。」と神様に対して恨みを感じるような場合には、恐れに打ち負かされることになることも私たちは忘れないようにしましょう。人は恐れると、そこから逃げようとしたり、ないような否定をしたり、時には身近な人に今の全ての状況はあなたのせいだと責めてしまう時もあり、自分自身や大事な自分の見方である人との関係さえも恐れてみずから全部打ち壊そうとする場合もあるでしょう。神は決してあきらめる事も、人と戦う事も、愛する人たちの関係が切られたり、分かれたり、分裂する事も主の御心ではない事を忘れないで下さい。神は自分も含めて全ての関係において愛し合うように、一つになるように、平和で共にする事を望まれます。

エペソ人への手紙6章10-12節には我々の戦うべき対象についてこのように教えて下さっています。

“終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。11悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。12私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。”

<②打ち勝って行くための第二の原則はまず神の前で自分が不十分であることをすぐ認める事です。>

それではなぜヨシャパテ王は恐れたのでしょうか。それは、彼が全く希望のもてない、見えない状況に直面していたからです。その時、彼は主に向かって12節を見てみますとこう叫びました。

“私たちの神よ。私たちに立ち向かってきたこのおびただしい大軍にあたる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいか分かりません。”この箇所は、人生のさまざまな戦いに勝利するための第二の原則もう一つを私たちに教えて下さっています。それは、自分が不十分であることを認めるということです。世には自分の不十分さを認めても、見せてもいけないという社会であるため、多くの人々は自分は絶対強い！自分は何でも完璧に出来る！見たいな完璧な、立派な人のような仮面をかぶっているのではないのでしょうか。しかし、聖書は逆の事を教えて下さっています。むしろ、自分の限界、弱さ、足りなさを正直に神に認める人こそ、幸いであると教えて下さっています。なぜでしょうか。神様は、助けを必要としていない人を助けることがおできにならないからです。私たちが自分の不十分さを認めて謙遜に、正直に助けを求めた時、神様は働かれるのです。

ヨシャパテ王は恐れて、その後の反応を見て見ましょう。どうしてですか。“私たちとしては、どうすればよいか分かりません。”と認めた上で、12節に“ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。”と神様に切に祈りました。

私たちは多く問題にかかった場合、自分の足りなさ、限界、無能感を感じていながらも、最初から神に認めようとしません。まだ、自身の力で戦って、最後、最後にどうしようも出来ない場合、ようやく神の前で告白し認めるようになる場合が多くありませんか。

主に焦点を合わせる必要があるにも関わらず、問題を解決することのできる唯一のお方から目をそらし、それ以外のものに焦点を合わせてしまいがちではなかったでしょうか。問題や思わぬ戦いに直面した時に、神の御前では謙遜に、正直になって先に、すぐ今自分の不十分さを認めましょう。私たちの非常に限られている力、智恵、能力に生きておられ、共におられる全能なる救い主なる主イエス様からの力と知恵受け取る事が出来ると信じます。

人の人生は、「権力によらず、能力によらず、私の霊によって」(旧約聖書ゼカリヤ書4章6節)と書かれている通りに、我々は人の力、知恵だけではなく、神の霊に私たちの内側で働いていただく必要があるのです。

ヤコブの手紙1章5節には“あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。”

そして、イエスキリストはいつも我々にこう語って下さっています。マタイの福音書11章28-29節“すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。29わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。”

<③打ち勝って行くための第三の原則は問題をすぐ神にゆだねる事です。>

自分の力でどうしようもできない危機的状況にあって、ヨシャパテ王は何をしたのでしょうか。彼は全国に断食を布告(ふこく)し、共に神に切に祈るよう命令しました(3-4節)。そして、国の中ユダの人々が集まり、神の助けを祈り求め始めたのです。ここに我々が人生のさまざまな戦いに勝利するための第3の原則があります。それは、問題をすぐ神様にゆだねることです。**愛する信仰の家族のみなさん！**ここで、「神にゆだねる」とは、どういうことでしょうか。簡単に言いかえりますと、祈ることを意味します。残念なことに、私たちはしばしば自分の思う通りが一番ベストだと思い込んで、自分の力で物事を全て解決したいと強く願い、祈ることを後回しにしてしまう時が多くありませんか。

ある日、ある姉妹が自分の苦勞を教会の牧師に相談して来てこう言いました。“先生、先生、本当に大変です。状況が全く良くなりません。もう私の力ではどうすることもできません。どうすれば良いでしょうか。”その時、牧師がこう答えて言います。“あ、そうですか。私たちに出来ることと言ったら、主に祈ることだけのようですね。”すると、その姉妹ががっかりした表情でこう答えたそうです。“先生、もうその手しか残されていないのですか。祈る意外に出来る方法はないでしょうか。”と。

愛するクリスチャンプレイズ教会の兄弟、姉妹、信仰の家族のみなさん！祈りは、私たちが人生の中様々な戦いに直面した時に、勝利するために最初に使うべき武器であることをぜひ忘れないで下さい。決して、最後の手段ではありません。地上に来られ、最も大きな戦いをされたイエスキリストが、最もよく祈っておられたことを我々が共に覚えておきましょう。

ヨシャパテ王は懇切に神様にこのように祈りました。“神様、あなたは過去に私を助けだして下さいました。そして、将来も助けて下さることを知っています。ですから、今のこの時にも、私を助け出して下さい！”と。

神はヨシャパテ王の祈りにどう答えられたかに注目して聖書の本文を見て見ましょう。

15節を何方か読んでいただきますか。“あなた方はこのおびただしい大軍のゆえに恐れてはならない。気落ちしてはならない。”

この戦いはあなた方の戦いではなく、神の戦いであるから。”人生のさまざまな戦いに勝利して行くためには、自分の限界を謙遜に認めてから、その問題を祈りを持って神様に委ねれば、我らの考えにまさる全能の神様がその熾烈な戦い中の問題を解決して下さるのではないのでしょうか。祈りをもって神に委ねられる者こそ、信仰の内に安らぐことが出来るでしょう。

今日多くのクリスチャンが感謝と感激を失っているのは、イエスキリストを信じますと言いながら、実際に神を信頼せず、委ねられず、相変わらず自分の力で完全に力尽きてしまっている姿がよく見えます。その結果、もっと疲れ果ててしまったり、問題の悪循環に巻き込まれてしまうケースがあります。

もし今日ヨシャパテ王が無理やりに盲目的に自分たちの力で敵軍と戦おうとしたなら、かならず負けるはずだったし、多くの犠牲を払わなければならない状況を招く事になったのではないのでしょうか。もし我々も限界ある自分の力で全てを戦おうとするなら、私たちは間違いなく打ち負かされてしまうと思います。

あるクリスチャンの方々は信仰の力ではなく、自分の情熱と熱心さで、神のために、よく戦おうとします。立派なクリスチャンのようになろうと勝ち取りたいと心から願い、一生懸命にやります。しかし、しばらく厳しい現実と直面してしまうと、徐々に後じさりが始まり、神様をがっかりさせていると感じちゃいながら自分なりに罪責問と失望に打ちのめされるようになったことはありませんか。

ある意味で、我々がクリスチャンであれ、そうじゃない人であれ、今まですべて自分の力で行って来たために、疲れ果ててしまい、ついには何もできなくなってしまったのではないのでしょうか。

しかし、みなさん、その時さえも神様は「大丈夫。あなたにがっかりさせられることはないよ。あなたが私を支えているのではありませんのだから」と言っておられます。みなさん！覚えるべきなのは私たちが神様を支えるのではなく、神様が私たちを支えてくださるのです。神様は今も私たちに「重い荷は私に下ろして、信仰の内に安らぎなさい。そうすれば、私があなたを通して働きますから」と言われるのです。

今もしみなさんの中で‘主よ。もう私はためです。疲れちゃいました。うんざりです。本当に、うんざりすることにもうんざりです。神様！もうお手上げです。’と今自分の心に叫んでいる方々がいらっしゃいますか。

実はその瞬間が神様の働きを待ち望む時です。そのような心に神様はこうおっしゃると思います。

“それで良い！これからは、私が働きを始めよう。あなたがわたしに心から委ねる時まで待つてたんだ。あなたのための素晴らしい計画はもう立っているからさ。さあ！気を楽しみなさい。あなたを通して私が働くから。むしろ私にすべて任せて！”

今日の本文第二歴代誌20章では2度「恐れてはならない(15、17節)」と命じておられます。実は聖書には多くの命令が出ていますが、そのなかで一番たくさんされている命令は“恐れるな”という命令です。それは、神ご自身が、私たちのためにそして私たちと共に戦って下さると約束されたからです。申命記1章29-30節“それで、私はあなたがたに言った。「おののいてはならない。彼らを恐れてはならない。」30あなたがたに先立って行かれるあなたがたの神、【主】が、エジプトにおいて、あなたがたの目の前で、あなたがたのためにしてくださったそのとおりに、あなたがたのために戦われるのだ。”

愛する信仰の家族のみなさん！いまだかつて、神さんが戦いに敗れたということがあったのでしょうか。いいえ。この世が始まってから一度もありません。私たちは最後に誰がついに勝つのかを知っています。最後ではなく、一番先に問題を主にゆだねるなら、大きく見えた問題でも縮(ちぢ)んでしまうのです。しっかり立ちましょう！今すべての状況がそうでなくても私は神に信頼しゆだねながら、今年は祈りをいつも先におく事により、勝利する一年となりますようにみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

詩篇138篇3節 “私が呼んだその日に、あなたは私に答え、私のたましいに力を与えて強くされました。”

詩篇145篇18節 “主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに主は近くあられる。”

<④打ち勝って行くための第四の原則は神様に先取りの感謝をささげる事です。>

最後に、今日ヨシャパテ王を通して神様が人生の戦いに勝利するための特別な原則があります。

21節をご覧ください。“神が与えてくださる勝利について、先取りの感謝をささげる”ことでした。ヨシャパテが民と相談し、主に向かって歌う者たち、つまり、神様の偉大さを賛美する者たち、聖歌隊を任命し、イスラエルの軍隊の先頭に配置した”のはとても興味深い事実ではなかったでしょうか。

まだ戦争が終わっていません。始まろうとするところでした。ところが、イスラエル軍は、聖歌隊を先頭にして、神様への感謝の賛美を歌いながら、戦場へと行進して行きます。非常におかしい場面ではないでしょうか。

結局、敵の連合軍はイスラエルの賛美の歌を聞きながら、きっとさらに大軍が攻撃し始めていると混乱したのか、23節によりますと、「互いに力を出して滅びし合った」のです。イスラエルは大勝利を収めました。

愛する信仰の家族のみなさん！神様はなぜこのような方法を取られたのでしょうか。

この事実は、勝利を収める前に信仰によって神様を賛美する大切さ、つまり、神様に信仰によって先取りの感謝をささげる大切さを、私たちにわかりやすく教えて下さるためだったのです。

例え)5万回祈りの答えを頂いたジョジ・ミュラー牧師の実話のお話。(孤児院で空の皿:そらのさらを置いても感謝の祈りを捧げた)感謝には力があります。それとも、先取りの感謝をささげられるのは神様への確実な信仰がなければ絶対不可能なことだと思えます。

<感謝のレベル>

感謝にもレベルがあり、段階があるとみなさんに話した事がありますが、覚えていますか。一番低い段階の感謝は、条件付き(IF)の感謝であります。「もし私がこうなったら、私の願う通りにそうすれば」「感謝します」という条件付きの感謝のレベル₄

です。いつも他の人と比較して幸せを図ります。その上の段階の感謝条件付きの感謝よりも少し良い感謝のレベルがあります。実は大部分の人がここに該当されるのではないかと思います。**結果による(Because of)感謝の段階**です。何かを受け取ったから、感謝出来る結果や理由があるため感謝する事です。感謝すべき時、感謝を表すだけでも良い事ではあります。しかし、この二つのレベルまでは別にクリスチャンではなくても、信仰がなくても、だれでも出来ることであり、子供たちも出来るレベルの感謝にすぎないレベルです。次のレベルからは必ず神を信じる信仰と確信がなければなかなか難しいと思われませんが、その上のレベルは**先取りの感謝(Privious)の段階**です。結果を見る前に感謝を捧げます。まさに今日の本文のヨシヤパテ王がそのケースが我々に戦いの前にすでに神ご自身が自分たちのために戦いつつ、勝利を与えて下さる事を信じて、先に感謝の賛美を捧げながら、行進したのではないのでしょうか。その結果、信じた通り、先に感謝した通りになった事を見ました。そして、一番上の感謝のレベルは**それにもかかわらず(In spite of)感謝するレベル**であります。今しばらく物事がうまくいかなくても、なかなかすぐ問題、戦いがすぐ終わらず苦しい状況の中でも、それにもかかわらず(In spite of)感謝するレベルで、あらゆる悪条件の中でも、神様がついにはすべてを必ず益として下さる事を信じて、すべての事に感謝する段階です。条件付きの感謝ではなく、条件を超えた感謝であります。このような感謝が出来るためには少なくとも**ローマ人への手紙8章28節とピリピ人への手紙4:6-7節の御言葉**を信じていなければ出来なんでしょう。“**神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。**”・ピリピ4:6-7 “**何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。**”

2016年も条件付きの感謝、感謝の結果を見て感謝する段階から、信仰によって、信仰を立たせて、先取りの感謝とそれにも関わらず感謝を捧げられる勝利の1年となりますように祈ります。

<まとめ>

メッセージを終わらせたいと思います。今日の御言葉を通してみなさんは今直面しているさまざまな戦いや問題に打ち勝つため自分のどんな態度を改める必要があるのでしょうか。今どんな問題について、先取りの感謝をささげることができるのでしょうか。戦うべき敵が間違えないようにしましょう。主の御前で先に自分が不十分であることをいつも素直に認めていきましょう。そしてその問題をすぐ神様に祈りをもって委ねましょう。そして、信仰を持ってどんな問題についても神様に先取りの感謝をささげましょう。主よ！あなたに解決できないことなどは決してありません！この告白によって神様に先取りの感謝をささげられるのです。これが本当の信仰でしょう。すべてのことに先取って神様に感謝を捧げる言葉や心が我々の生活、人生の中で圧倒的に満ち溢れ圧倒的に打ち勝つ勝利の一年となるクリスチャンプレイズ全家族となりますように主の御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン。

申命記31章8節を何方が読んで頂きますか。“**主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたと共におられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。**”